

# 学習院大学硬式野球部について（概要・現状）

2024年11月  
学習院野球部OB会

## <概 要>

### 1. 学習院大学硬式野球部の歴史

1889年に創部した学習院野球部は、今年で創部135年を迎え、日本でも屈指の歴史・伝統のある体育会運動部です。嘗ては旧制高校時代のインターハイ全国優勝や昭和33年の東都大学連盟1部リーグでの優勝等、輝かしい時代があり、東都大学でも強豪チームとして1・2部に君臨し、活躍していました。

しかしながら、近年は3部リーグに雌伏しています（1部17シーズン・2部20シーズン在籍）。

### 2. 学習院大学の方針と野球部の考え方

学習院大学では、創部以来、体育推薦やセレクションによる入学制度は認められていませんが、それが理由で野球部が弱いというのは、単なる体の良い言い訳でしかなく、それを嘆いていても仕方ありません。それが学校の方針であるならば、その方針に則った形で、真に強い野球部へと再生させ、学生野球チームの範になってゆきたいと考えています。

学習院野球部は、今年で135年、重要な転換点を迎えています。この機会を逃すことなく、必ず日々の練習を結果に結びつけ、伝統を復活させたいと考えています。

### 3. 現在の指導体制

学習院大学野球部は、6年間監督を務めた石井潤一氏（福岡県立筑紫丘高校ー学習院大学）が退任し、2024年秋季リーグ戦終了とともに、2部時代のエース投手、栗山隆二氏（浅野高校ー学習院大学ー日本生命野球部ー日本生命）が監督に就任しました。また同じく2部昇格時の主将で4番打者の西尾誠氏（学習院高等科ー学習院大学）もコーチとして迎え、指導体制を充実いたしました。

### 4. 卒業後の進路

現在、我が野球部では、現場・OB会が一体となり、“伝統の復活”を合言葉に、立て直しを図っています。伝統を背にOB会組織もより一層の充実を目指し、きめ細かい心配りをするため、選手一人ひとりと向かい合っています。普段の練習・学生生活のみならず、就職等の相談・支援も行っています。

卒業後の進路・就職面では、毎年、本人の希望に沿った形で、優良企業を中心に、公務員や教員となり、社会でも大活躍する学生を多く輩出しています。一般企業への就職では、平均的に、一般学生よりも早期に決まっています。また、教職単位を取得し、高校教員となつて、高校野球指導に当たっているOBも多数おります。

## 5. グランド環境の利便性

練習グラウンド（東都大学連盟指定球場）は目白のキャンパス内にあり、環境にも大変恵まれ、選手達は、練習に授業にと、ユニホーム姿で学内を行ったり来たりしており、充実した青春時代を謳歌しています。

学習院野球部は、“学生の本分は勉強である”という考えを貫き、野球のみならず、学業も決して疎かにはしません。入部いただければ、決して期待を裏切る事のない運動部であると自負しています。

## 6. <現 状>

### (1) 東都リーグにおけるチームの位置

現在、学習院大学野球部は東都大学野球連盟3部に所属しています。2024年度春季のリーグ戦は、下表のとおり6勝6敗 勝点2で4位となりました。

順位	チーム	順天大	大正大	帝京平成	学習院	上智大	成蹊大	勝	負	分	勝率	勝点
1	順天大	—	●○○	○○	○●○	○○	○○	10	2	0	0.813	5
2	大正大	○●●	—	●○●	○●○	○○	○○	8	5	0	0.615	3
3	帝京平成	●●	○●○	—	○○	○○	●○○	8	5	0	0.545	3
4	学習院	●○●	●○●	●●	—	○○	○○	6	6	0	0.500	2
5	上智大	●●	●●	○○	●●	—	●○○	4	7	0	0.364	2
6	成蹊大	●●	●●	●●	●●	○●●	—	1	10	0	0.091	0

4/13 本院 17－5 成蹊大      4/14 本院 8－4 成蹊大  
 4/20 本院 0－4 大正大      4/21 本院 4－0 大正大      5/18 本院 4－5 大正大  
 4/27 本院 4－10 帝京平成      4/28 本院 1－2 帝京平成  
 5/4 本院 7－6 上智大      5/7 本院 4－1 上智大  
 5/11 本院 3－5 順天大      5/12 本院 3－2 順天大      5/25 本院 3－6 順天大

### 表彰選手

神谷選手：首位打者 打率. 421

神谷投手：二塁手ベストナイン

新井選手：三塁手ベストナイン

飯塚選手：外野手ベストナイン

チーム防御率 3.343      チーム打率 .277

4年間チームを支えてきた5人の投手が卒業して投手力の低下を心配していたが、大菌投手を中心に1, 2年生投手の頑張りで何とか5割は確保できた。途中、大菌投手が故障をした為に第3戦まで持ち込んだ大正大学戦や順天堂大戦に連勝していれば優勝もあったが、残念な結果となった。3割超えの打者が神谷選手を含めて4人もいたにもかかわらず、ここ一番でのタイムリー不足は例年と同じであったのが今後の課題である。

## 秋季リーグ戦

2024年度秋季リーグ戦は8勝6敗勝点3で3位となりました。

順位	チーム	帝京平成	大正大	学習院	成蹊大	上智大	順天大	勝	負	分	勝率	勝点
1	帝京平成	—	○○	○●○	○●○	○○	○○	10	2	0	0.833	5
2	大正大	●●	—	●○○	○○	○○	○○	7	4	0	0.636	3
3	学習院	●○○	○○○	—	○○	●○○	○●●	8	6	0	0.571	3
4	成蹊大	●○○	●●	●●	—	○○	○○	5	6	0	0.455	2
5	上智大	●●	●●	○●●	●●	—	○○	3	8	0	0.273	1
6	順天大	●●	●●	●○○	●●	●●	—	2	9	0	0.182	1

9/11 本院 7－1 大正大 9/12 本院 1－5 大正大 9/13 本院 2－1 大正大  
 9/18 本院 4－5 上智大 9/19 本院 7－2 上智大 10/26 本院 5－2 上智大  
 9/29 本院 9－5 順天大 10/6 本院 3－7 順天大 10/27 本院 1－2 順天大  
 10/12 本院 10－8 成蹊大 10/13 本院 5－4 成蹊大  
 10/19 本院 0－8 帝京平成 10/16 本院 5－3 帝京平成 10/21 本院 4－13 帝京平成

### 表彰選手

山口選手：首位打者 打率. 396

山口投手：一塁手ベストナイン

新井選手：三塁手ベストナイン

上原選手：指名打者ベストナイン

**チーム防御率 3.786 チーム打率 .270**

故障明けの大菌投手がどのくらい復活してるかが秋季リーグ戦のカギとなっていたが、春季に活躍した出原投手も故障となり苦戦を覚悟してのリーグ戦開幕となった。しかし、1年生の比江島投手、2年生の大石投手の頑張り、完全復活とはいかないまでも大菌投手を含めた投手陣の活躍で前半戦を乗り切り、春季と同様に優勝に向けて選手達は一丸となって頑張っていた。打撃陣も取られたら取り返すという粘り強い打撃で投手陣を援助していた。最終戦の帝京平成大学戦に勝点を上げ、第三戦が残った上智大戦、順天大戦に勝利すれば完全優勝であったが、あと一步のところ、春季と同様に息切れして優勝を逃してしまった。ただ、春季も秋季も本院の選手が首位打者を取得し、ベストナインにも3人ずつが選出されたことは、今後の本院野球部にとっても良い刺激となり、このまま打撃陣の力を維持し、栗山監督の指導の下で独り立ちする投手が育てば2部昇格も近々実現できるチームである。

## **(2) 選手の構成**

新チームは、選手60名(3年生15名、2年生22名、1年生23名)学生監督・学生コーチ2名、マネージャー7名の合計71名で活動しています。喜春は、正に2部昇格を実現すべく、日々練習に励んでおります。上昇基調にある、大変充実感溢れた野球部です。

## **(3) 野球部の活動状況**

長年にわたりコーチや広報活動などでチームに携わってきた、栗山監督、西尾コーチ、を招聘した結果、チームには活気が溢れ、選手には一層の上昇志向がみられます。

特に、最近では学生監督・学生コーチが中心となり、選手間で練習メニューを考え、毎日の活動を行うことで自主性や責任感が生まれ、活気溢れる野球部になっています。昨春の入替戦での敗戦を経験した選手たちが、自分たちには何が足りなかったかを全部員に対して指摘して毎日の練習に取り組んでいます。

現在は、長きにわたり続いている低迷(昭和57年秋3部陥落後からこれまで一度も2部に復帰していない)を打開し、2部復帰、更には1部返り咲き、という大きな夢を実現するため、全員が一丸となって活動しています。

以 上